

2024年9月5日(木)

老球の細道826号

第61回県高校バスケットボール選手権大会観戦雑感

会津バスケットボール協会 室井 富仁

夏休みにパリ五輪、福岡インターハイ、新潟全中、そして会津地区ミニバスチビッ子大会とバスケットの熱い戦いが続き、暑い夏がますます熱くなった。そして8月31日から9月2日にかけて行われた高校のウインターカップ地区予選もさらに熱い戦いが繰り返された。

男女ともに会津高と若松商の決勝戦となり、男女ともに会津高が優勝した。会津高男子は高体連に引き続き連覇、女子は高体連で大差で負けた若松商に逆に大差をつけてリベンジを果たした。

会津高女子は怪我人が多く、厳しい戦いになると予想されたが、今まで3年生部員1人で頑張って来た山口さんの身体を張った大魔神の活躍と1年生で今年のミニスポ(旧ミニ国体)県代表に選出された佐藤さんと高校からバスケを始めた松田さんのインサイドでの大活躍で大差のアップセットを果たした。

男子の方は女子とは逆にリベンジを目指す若松商が3年生の「会津の河村勇輝」こと森川君の縦横無尽の大活躍と1年生真部君の3Pでスタートからリードを広げたが、会津高は高校から本格的にバスケットを始めた「会津のヨキッチ」こと竹安君のインサイド攻撃と三浦君の確実なミドルジャンパーで徐々に追いつき1点を争う好ゲームとなった。

1点を争う接戦のゲームは、ベンチ、選手、そして私たち観戦者も非常に緊張するところだが、番狂わせ(アップセット)を起こすことと同じようにゲームの醍醐味である。楽しまなければいけないし、集中して燃えなければならない。緊張して逃げ腰になった時点で負けである。そのような時にえてしてターンオーバーが起きる、ノーマークシュートを外す、フリースローを落とす。5点差以内のゲームの勝敗は、私の拙い経験から以上の三つが原因であった。同じような場面はまた同じようにやって来る。日頃の練習から準備あるのみである。

コーチのベンチワークも重要である。残り28秒(?)1点リードでタイムアウトを取った会津高の大内HCはスローインをバックコートから選択したがどのような意図でどのような指示をしたのか。パリ五輪の日本対フランス戦の最後のタイムアウトを彷彿させた。

県大会では他地区の強豪校が待ち受ける。近年、海外からの留学生やタレントをリクルートしたチームが勝ち続けているが、会津地区の高校は諦めてはいけない。負けは次の勝利へのステップになるが、諦めは永遠の負けへのステップとなる。タレントを集められない普通の高校は「日々の努力の積み重ね」で個人技、チームプレイを極めることが強化につながる。

「三つの刃」がある。「鬼滅の刃」は鬼をやっつける、「決めつけの刃」は自分をやっつける、「極めつけの刃」は相手をやっつける。では、極めるには「五つの“い”」を目指すことである。①うまい(正確に上手になる)②速い(判断も)③強い(コンタクトに負けない)④賢い(状況判断)⑤室い(わかっているけど抑えられないシグネチャームーブ)。

全国への道は限りなく遠い。しかし、今日の一步で確実に近づくことは間違いない。